

五七五で描く
「総合」編

まえがき

さて、今回は、五七五で描く「シリーズ」の、いわば「最終章」、つまり、五七五で描く「総合」編であるが、それは、この世の実に様々なものを「五七五」で描くというものであり、その場合、基本はあくまでも「五七五」を基調としながらも、内容によっては、「五七五」の字数だけでは表現しきれないものもあり、その場合には、どうしても「字余りになってしまう」ものであるが、それは、やむを得ない場合は、仕方なく、「五七五」の字数よりも、むしろ「内容を重視」した表現になっているということである。

そして、この五七五シリーズは、「五七五」という形式で表現できるものは、何も「俳句」や「川柳」だけではなく、例えば、象徴詩、標語、その他、どのようなものでも表現でき得るものであり、そういう、いわば無限の「可能性」への挑戦であり、それは、それなりに「説明」できたのではないかと思う。そして、この「五七五シリーズ」の「名称」としては、いわゆる「三行詩」（或いは「五七五詩」と呼んではいるが、もちろん、そういう「名称」が大事なのではなく、何よりも大事なことは、われわれ日本人は、母国語として「日本語」を使用しているわけだが、その「母国語」（つまり「日本語」）の特性に最も叶った形式というのは、まさに「五七五」（或いは「五七五七七」）であり、それこそは、まさに最も根源的であり、最も無理のない、最も自然で、最も美しい「形式」になるということである。

平成二十八年九月吉日（決定版）

如月翔悟

目次

まえがき

五七五で描く「総合」編

- 一、 インターネット時代
- 二、 子供や学生時代、その他
- 三、 芸術や芸能、その他
- 四、 東日本大震災（二〇一一年三月十一日）
- 五、 芸能や天災、その他

*

*

一、インターネット時代

人が手に

もう一つの頭脳

パソコンか

携帯等が

生命と操る

女子たちか

現実を

一瞬で撮り込む

写真かな

動画の

現実其の儘残す

魔力かな

虚と実の

映像で織り成す

テレビかな

その姿と

超速で魅了の

新幹線か

動く姿

写真に撮り込む

愛好家かな

気球の

浮力で舞ふや

空遊泳

大空を

気球で染める

競技かな

操縦を

大空で楽しむ

軽飛行機かな

ブログにて

新たな自分へ
挑戦か

眩きで

世界も動く
ツイッターか

仲間たち

連絡し合ひ
大集合

ネットこそ

新たな市場と
開拓か

現実より

ネット社会
より現実に

イントロに
酔ひて歌ひ入る
カラオケか

歌ひ合ひて
聴ては壊れゆく
夜明かな

プリクラを
撮り合ふ仲の
二人かな

二人だけの
仲を撮り合ふ
プリクラか

密やかに
メール交し合ふ
男女かな

異次元の

超技に魅入る

サーカスカ

二の対象を

比べて楽しむ

物真似か

驚異の

数を空で弾く

暗算か

絶妙な

技で魅了の

手品かな

華麗なる

超魔術で魅せる

奇術か

軽業かるわざで

屋敷やしき忍しのび入いる

忍しの者しやかな

盗ぬすみ出だす

物もの情じやう報ほう得えて

戦せん略りやくか

手しゅ裏り剣けんや

目め潰つぶし

忍しの術じゆつか

驅く使しの

次つぎから次つぎ

虚きよを衝つく忍しの者しやの

離はなれ業わざ

山やま里さとで

過か酷こくな修しゆ行ぎやうの

忍しのびかな

二、 子供や学生時代、その他

国旗高く
張り巡らして

運動会

園児らが
可愛く走る

徒競争か

我が子らの
走りに涙する
母たちか

記念にと

撮る親たちの
闘争かな

子供らの

成長喜ぶ
運動会

子供らの
心魂こころが弾はずむ

駄菓子屋か

金を手に

駆け込み狙ねらふは

ガチャポンか

お好みの

駄菓子で充みたす

満足感

籤引くじびきで

大当り狙ねらふか

勝負引き

もうちよいの

U F O キヤッチャーの

歯痒はがゆさよ

おさな子の

生きるとは

遊ぶことなり

三竦すくみの

指が織おり成す

決め事か

身を隠かくし

急に襲おそふや

隠かくれんぼ

追ひ追はれ

永遠とこほに終らぬ

闘争バトルかな

遊あそびながら

全身わらで笑ふか

子供たち

子供らが

熱く演じるか

昔話

授業終へ

昼間の楽しみ

給食か

バスに乗り

歩かず辿り着く

遠足か

京都奈良

生徒行き交ふ

季節かな

文化より

売店楽しみの

学園祭

各学科

時間割で学ぶ

授業かな

結果見て

一喜一憂の

テストかな

学ぶのも

遊びまくるも

夏休み

必勝と

挑む思ひの

受験かな

人生の

別れを学ぶか

卒業式

子への想ひ

弁当に込めて
送る母

レシピ見て

悪戦苦闘の
毎日か

料理こそ

五感総て充たす
王道かな

究極の

味と業求む
料理人か

食べ過ぎこそ

万の元凶と
言ふ医師か

三、芸術や芸能、その他

詩人とは
断崖だんがいに立つ心の
叫びさけかな

多様たやうなる
心の襞ひだるが描く
小説か

脚本きゃくほんや
心模様こころもやう織り成す
会話かいわかな

批評ひひやうとは
本質ほんしつ捉へて
評すひやうこと

演劇えんげきや
切れば血ちも出る
実在リアライティか

夢想と
バーチャル

現実で織り成す

映画かな

アニメとは

心無限に拡げる

夢世界

漫画とは

一画一画の

静止画か

事実見て

真実語る

報道か

評論は

あるべき姿の

語部か

政治とは
問題解決の
実践なり

経済は
絶えず変化する
生きものか

教育は
心と能力
育てること

社会活動
わが身活かす
新たな道か

医療とは
心身癒す
人術か

生きるとは

今、まさに

この瞬間か

あと数日

今年も暮る

年の瀬か

音もなく

流るる砂の

刻みかな

時こそは

正に姿なき

殺人者

仕掛けては

為損じなしの

歳月か

右手^あ拳^あげ

金運^{まね}招^{まね}くか

まねき猫

左手^{ひだりて}や

商売^{さかえ}繁^{さかえ}盛^{さかえ}る

人招^{まね}き

健康^{ねが}を

願^{ねが}ふ想^{おも}ひの

黒招^{まね}き

今日^けの運^ふ

テレビで観^みるや

星^{ほし}占^{うらなひ}

ラツキーな

色^{いろ}を一箇^{ワンポイント}所で

使^{つか}ふ知^ち恵^え

指で辿る

新たな文字の

感触か

第三の

言葉となるや

手の動き

はり灸で

施す治療の

荒技か

足ツボの

急所攻め立て

癒す指

身を解す

絶妙な手なれの

マツサージか

歌声をうたごゑ

合唱コーラスに変かへる
調和ハモニーか

華はなやかな

演奏みれうで魅了みれうす
吹奏楽団ブラスバンド

躍動やくどうする

若さわかで声援せいえんの
チアガールか

華麗わびなる

技わざで魅みせるか
バトンさば捌さばき

整然せいぜんと

進む楽隊がくたいぞ
鼓笛隊こてき

朝早くはやと

子供こどもら集あふ

体操たいそうか

音ねに合あせ

手足てあし動うごかす

心地こころよさ

作業さぎょうする

前まへに今いまでも

体からだほぐし

縁日ひまわりに

雛ひなも顔かほ出す

昔むかしかな

箱なかにの中

電球でんきゅうで育そだてし

雛ひなかな

絵と文字で

優しく読み解く

絵本かな

色と形

感触楽しむ

陶芸か

書く文字と

己が心の

一致かな

歌詠みて

心留めおく

短歌かな

折鶴や

一心で折り込む

願ひかな

大理から
甦よみがへる生命いのちの
ダビデかな

刀劍たましいや
魂たましい打ち込む
鍛錬たねか

茶の道みちや
一期一会いちごいちえの
もてなしか

空くうの間に
華はなを添そへる
華道くわだうかな

緻密ちみつさを
極きわめて生うむや
工芸こうげいか

可笑しみを

言葉であやなす

川柳か

我が想ひ

形と色彩で

絵画かな

傍に居て

人の心癒すや

縫ひぐるみ

顔の面に

生命吹き込む

人形かな

親と子で

織り成す心の

綾取か

ゆるやかに

円心えんしんで舞まふか
太極たいきょく拳けん

一瞬いつしゆんの

動きうごで絶たつや
居合いあひ斬ざんり

逆取さかりて

関節くわんせつ封ふうじの
合気あいき道だう

情熱じやうねつを

秘ひめて踊をるか
フラメンコ

華麗くわいれいにと

息合いきあせ踊をるや
社交しゃうダンス

身の動き

それが全ての
舞踊かな

淑やかな

舞ひで魅せるか
日本舞踊

舞台と

熱狂で溶け合ふ
ライブかな

照明浴び

踊り狂ふも
ディスコかな

アイドルを

真似て踊るも
一体感

モナリザや

息づく生命の

微笑か

その瞬間を

永遠に捉へて

振ふ筆か

アテナイの

学堂に集ふ

愛知者か

向日葵に

己が心見し

ゴツホかな

ビーナスの

誕生辿れば

海の泡

一字一句
いちじいっく

完璧な悲劇や

オイデイプス王

高利貸し

血の一滴で裁く
ちのいちでさば

裁判か

ブルータス

お前もか、と

シーザーか

狂言が
きやうげん

狂死生み出す
きやうし

オフェリアか

スフィンクスの

謎解くオイデイプスも

己が宿命の謎は解けずや
おのさだめ

永遠を
誓ふ男女に襲ひ来る
思ひ違ひが生む悲劇かな
狂気さへ
装ふハムレットにさらに
襲ひ来る復讐の悲劇かな
人の心魂
狂はすものは金と地位と
愛と疑ひの嫉妬かな

三人の
娘の心魂読み解けず
身も愛娘も滅ぼすリア王か
魔女の予言に
負けて王位を奪へども
心悩ます罪の意識かな

結婚や

新たな喜^あ哀^らの
始^はまりか

黄金より

手にする生^い命^{のち}の
重^{おも}みかな

海^うよりも

深^おき想^もひとや
母^{はは}の愛

何^{なん}よりも

孫^{まご}ぞ愛^{いと}しと
祖^{おじい}父^{おや}母^{はは}かな

親^{おや}となり

やがて思^{おも}ひ知る
親^{おや}の恩

四、東日本大震災

二〇一一年（平成二十三年）

三月十一日（午後二時四十六分）

がたがたと
激しく襲ひ来る
恐怖かな

無常とは
まさにこのことか
大震災

ためらひが
生死分かつか
大津波

助けてと
叫ぶ声さへ
波に消え

政治とは
誰がための
政治なのか

人智^{じんち}など

遙^{はる}かに超^こえて

大津波^{おほつなみ}

ばりばりと

全^{すべ}て壊^{こは}して

迫^{せま}る津波^{なみ}

これほどの

破壊^{おろ}で襲^{おそ}ふとや

黒き波^{なみ}

現実^{ほんと}かと

見居^みるばかりの

人^{ひと}の顔^{かほ}

何^{ひと}一つ

残^{のこ}さず奪^{うば}ふ

津波^{なみ}の跡^{あと}

茫然と

見渡す限り

廢墟かな

高台へ

逃げる一手の

津波かな

警鐘に

逃げ惑ふ人の

戸惑ひか

決断の

遅れが生死

分かかな

悲しみは

悲しみのまま

今日を生き

避難所びなんじょや

極限きょくげんで過すこす

寒さむさかな

燃料棒りょうりょうぼう

溶とけて水素すいその

爆発ばくはつか

大気たいきへと

撒まき散ちらさるる

放射線ほうしゃせん

目めに見えぬ

敵てきと戦たたかふ

日々ひびとなり

天災てんさいや

人心にんしんの隙すき襲おそふ

大震災だいしんさい

五、 芸能や天災、その他

能^シ面^テの舞

霊^{あらは}魂^れ現^れ

語^{かた}る姿^{すがた}や

可^を笑^かしみで

魅^みせる舞^の台^の

狂^{きふげん}言^か

演^のじ切^る

百^れ花^{らん}繚^の乱^の

歌^の舞^の伎^のかな

情^つ尽^くして

浄^{カタル}化^{シス}生^むむ

浄^{じやう}瑠^り璃^りか

男^{だん}装^{さう}で

華^{くわ}麗^{れい}と魅^みせるも

宝^{タカラ}塚^{ツカ}か

三味の音に

唸る名調子の

浪花節

軍記もの

熱く語るや

講談師

滑稽話で

ご機嫌伺ふ

落語かな

絶妙の間と

ぼけが生命の

漫才か

巧みにと

繰り出す連打の

物真似か

厳おごかに

奏かなで舞まふも
雅が楽がかな

神かみ々がみに

捧ささげ奏かなで
音おと楽とと舞ま踊ひ

神かみ社たのにて

神かみ楽たのします
祭まつりかな

矢や倉くら組み

先むか祖は迎むかへる
盆ぼん踊どり

幸しあはせは

心たま魂しひふかく
充みたさるる事

リーダーに
巨大な姿すがたの

ハリケーン

容赦ようしやなき

猛威おそで襲おそふや

暴風雨ぼうふうう

降りやまぬ

記録破やぶりの

豪雨ごううかな

溢あふれ出て

町まちを襲おそふや

大洪水

大噴火だいふんか

驚異おどろと噴ふき出す

岩漿マツマかな

閃光せんくわうの

一撃いちげきで襲おそふ

稲妻いなづまか

襲おそひ来る

巨大きよだいな渦うづの

竜巻たつまきか

山霧やまぎりや

見る見るうちみるみるうちに

視界しかい消え

めらめらと

山野やまの舐なめ尽つくす

山火やまの事ことか

斜面しゃめんから

一気いつきに崩くずれ襲おそふ

雪崩なだれかな

音もなく

降り積る雪の

恐怖かな

めりめりと

心押し潰す

響きかな

雪下の

重荷背負ふ

雪国か

隊商に

猛威振ふか

砂嵐

氷山に

衝突沈むや

豪華船

物づくり

いいものをおも

一念か

びつたりと

心魂に合ふを

目ざすのみ

完成とは

己が心魂との

一致かな

超自我や

自分も驚く

出来映えか

精神の

飛翔が生み出す

精華かな

神かみがかりかり
人心ひとこころもおどろ驚おどろく
出来でき映ばえか

無意識むいしぎに
言語ことばにかへ交換かへてる
脳なごの中なか

知らぬ間まに
言葉ことばでま思考しこうす
不思議ふしぎかな

言葉ことばこそ
人ひとを人ひとと成なす
根源みなもとか

厳密げんみつな
言葉ことば連つらねて
深思考しんしこう

姿すがたより

肉声にくせいこそは

その人ひとなり

湧水ゆうすいや

砂舞すなひ踊をどらす

冷たつめさか

水面すいめんを

超速てうそくで走るや

バシリスク

殻捨からてて

生きる姿すがたぞ

ナメクジか

人心にんしんの

隙すきを襲おそふや

大天災

いつからか

心がめざす

方向かな

心の底^{そこ}

灯る^{とも}明り^{あか}ぞ

希望かな

充実とは

自分が自分と

なることか

ベターより

ベストが恋しい

恋心

良き伴侶

得てぞ知る

良き人生

運命と

意志が織り成す

悲劇かな

笑わせて

しかも泣かせる

喜劇かな

和漢にて

あはれを尽くす

源氏かな

生き方を

問ふて悩むや

ハムレット

さまよへる

霊鎮めんと

仇討か

柿食へば

己が宿命の
鐘の音か

一すちの

蓮の池への
蜘蛛の糸

熱き肌に

宿る女郎蜘蛛の
宿命かな

この味

越すに越されぬ
女体坂

甘き罨

仕掛けて誘ふ
悪魔かな

草枕くさまくらの

旅たびをしばしと

湯ゆの宿やどか

わが罪つひを

終つひに裁さばくは

内なる神か

空くうより発し

自みづと当あたる

これ極きわみかな

不可能を

感じぬ脳こそ

超人なり

悟り得て

叡知働く

思索かな